

日本語及びタイ語における外来語の受容

お茶の水女子大学 院生 Phattraphan BUNNAG

現代の国際化社会においては、外国と接する機会が多くなり、それと共に、その国の文化や言語の影響も避けられなくなっている。日本及びタイでも外国からのあらゆる影響を受けている。

日タイ両国は、600 年にわたる長い交流の歴史があるといわれており、1887 年（明治 20 年）9 月 26 日に「日暹（にちせん）修好通商に関する宣言」（日タイ修好宣言）が調印されて正式に開始された日タイ間の外交関係は、2007 年に 120 周年という新たな節目を迎えた（外務省：日タイ修好 120 周年）。また、日本ではバブル直前の 1980 年代半ばごろからエスニック料理ブームが起こった。それにも拘らず、日本語におけるタイ語の外来語は未だに少ない。一方、表音文字であるタイ語では音や形は異なるが、日本語からの外来語は多く見られる。なお、世界の共通語となっている英語起源の外来語の影響が顕著であることが共通している。

本発表では、このような背景を踏まえ、新聞記事を資料とし、Google 検索、Google インサイト及び外来語辞典を使用し、日本語におけるタイ語の外来語とタイ語における日本語の外来語の受容、そして、両言語における英語の外来語の受容の共通点及び相違点を明らかにすることを目的とする。